

【演習】

障害特性の理解とプランニングⅡ

－行動援護を利用した外出時の支援の手順書を作成する－

この時間の目的

屋内での日中活動の支援とは異なり、外出時の支援には特有の配慮が必要となります。この時間は、「高崎のぞむさん」が行動援護を利用して外出する場面を想定し、自閉症や知的障害の障害特性に配慮した外出時の「支援の手順書」を作るプロセスを学びます。

【ポイント】

- ① アセスメントや検討した支援計画が「正しい」かどうかを問題にする時間ではありません。
- ② 外出時の支援で特に気をつけなければいけないポイントを押さえましょう。
- ③ 経験の比較的浅いヘルパーに指示を出す際の留意点を整理しましょう。

この時間の流れ



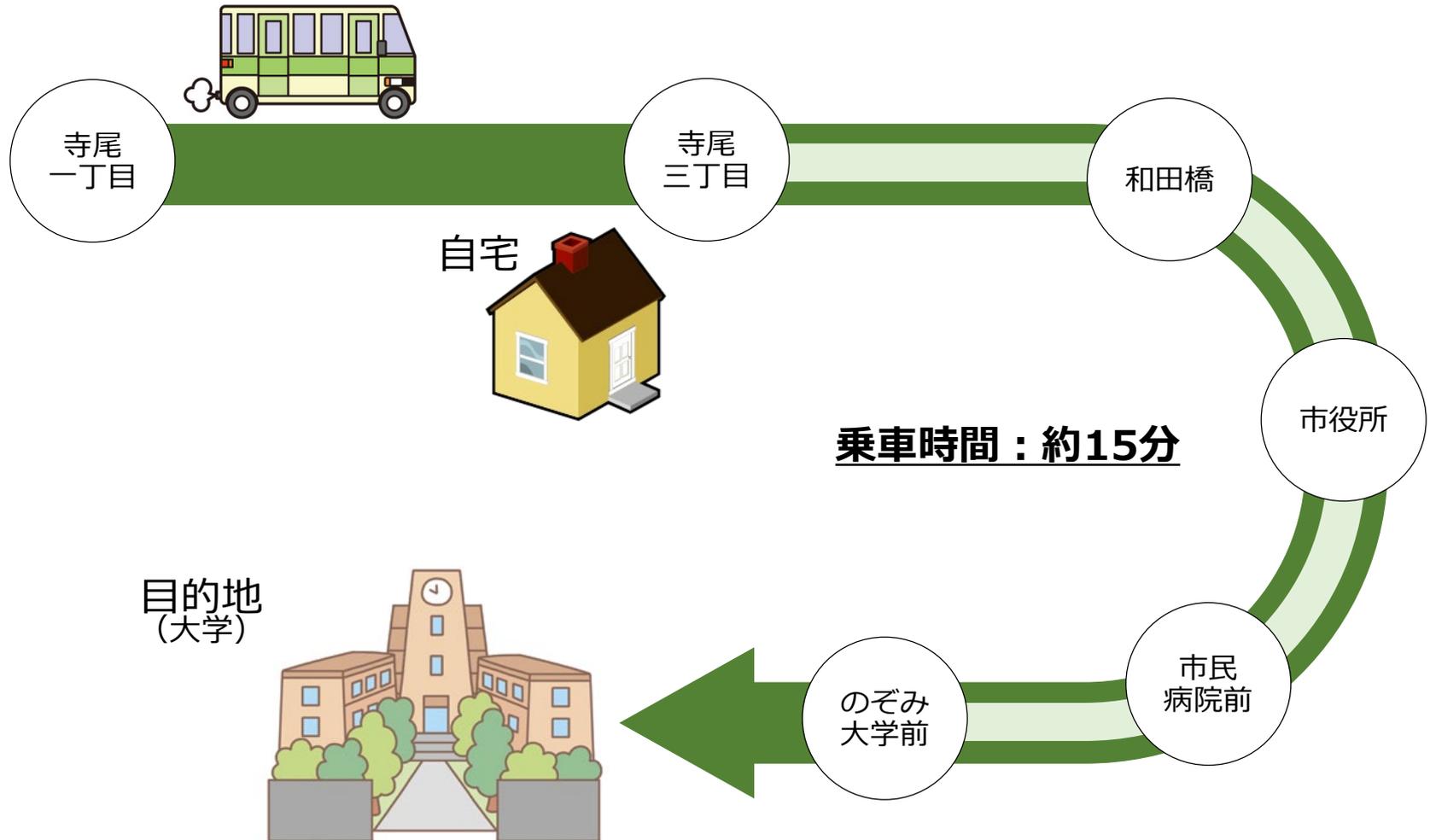
演習①：行動援護を利用した外出時を想定し、4つのプロセスから支援の方法を整理しましょう。

演習②：立案した支援の手順書を、比較的経験の浅い職員に伝えることを想定し、実際に他者に伝えてみましょう。

のぞむさんの休日

- ある天気の良い土曜日の午後のことです。のぞむさんは行動援護事業所のヘルパーと一緒に路線バスに乗って15分くらいのところにある大学構内に散歩に出かけました。
- あまり人のいない静かな構内の散歩道を歩き、学生食堂前にある自動販売機でジュースと小さなお菓子を買う。乗り物好きで食べることも大好きなのぞむさんの、休日のささやかな楽しみです。
- 長年続いていた週末のドライブがお父さんのケガで続けられなくなったのをきっかけに、継続可能な週末の過ごし方を考えようと、この散歩を取り入れてから早2ヶ月が経ちました。
- 毎回、出発時に外出の流れを写真カードを使いながら丁寧に説明していることもあり、のぞむさんもだいぶ慣れたようです。今ではヘルパーが訪問すると、嬉しそうにリュックサックを背負って家から出てくるようになりました。

のぞむさんの外出 | バスのルート



のぞむさんの外出 | 大学構内の様子



左上：バス停

右上：食堂前の広場

左下：自動販売機

あるヘルパーの悩み

- のぞむさんの外出を担当しているヘルパーにはとても困っていることがあります。それは、のぞむさんが降りる停留所ではないのに降車ボタンを押してしまうことです。
- ボタンを押してしまうと降りずにはられません。仕方なく手前のバス停で降りることになり、混乱するのぞむさんを目の前にして途方にくれたこともあります。
- 今のところ、その場しのぎでボタンを隠したり遮ったりもしていますが、のぞむさんがイライラするだけであまり効果はありません。ただ座って着くのを待つのが苦手なようで、着くのを今か今かと待っている様子も見られます。
- のぞむさんは子どもの声も苦手です。バスの中でうまく過ごせずイライラしているときに、もしバスに小さな子どもが乗ってきたら…。悩む日々が続いています。

演習① | バス内の過ごし方を考える

- テキストに沿って、のぞむさんのバスの中での過ごし方について4つのプロセスを作成しましょう。
- 「司会」を①、「発表者」を②「記録」を③の人が行います。

【演習の流れ】



【使用する情報】

1. 情報シート (P 1 -P9)
2. スライド「あるヘルパーの悩み」
3. ヒントシート

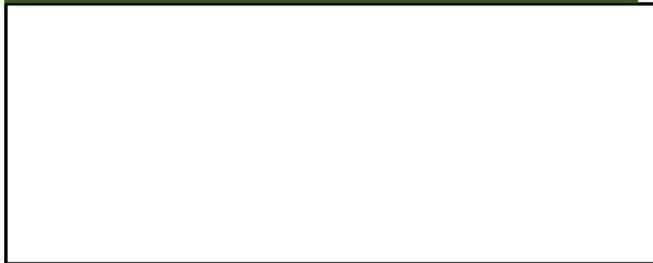
演習① | 4つのプロセスの作成

①～④のステップに沿って、グループで話し合いながら4つのプロセスを作成しましょう。ワークシート（WS-3）を使ってください。

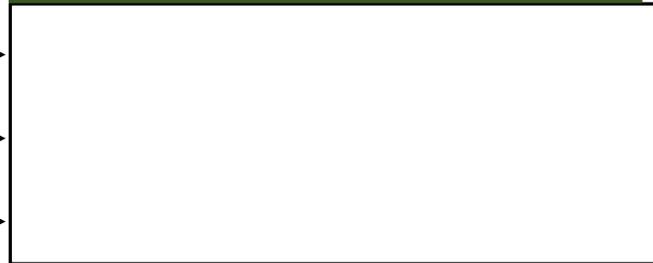
生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 目的地より手前のバス停で降車ボタンを押し、実際にそのバス停で降りてしまう。
- 小さな子どもが乗ってきたときに、声に反応して押す・声をあげる等の行動が出るおそれがある。

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル



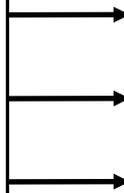
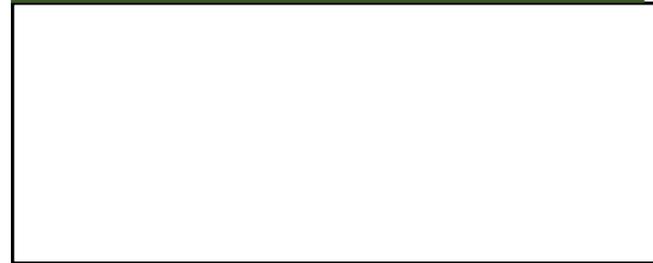
②障害特性を「強み」の表現に変換



③他の場面から「強み」のリスト追加



④「強み」を活かした新たな環境



演習① | 発表とまとめ (20分)

1. 2～3グループに発表してもらいます。
2. 発表者は、4つのプロセスに沿って、どのような結論になったのかを簡潔に報告してください。

演習① | 記入例 I

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 目的地より手前のバス停で降車ボタンを押し、実際にそのバス停で降りてしまう。
- 小さな子どもが乗ってきたときに、声に反応して押す・声をあげる等の行動が出るおそれがある。

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- いつまで乗っていればよいか分からない（いつまで、どこまで乗るのが分からない）。
- 何もしないで待つことが難しい（車内で待つための方法が用意されていない）。
- 子どもの声が苦手（子どもが乗ってくるのが予期できず、静かにしてもらうこともできない）

②障害特性を「強み」の表現に変換

- いつまで乗るのか（先の見通し）が視覚的に示されていれば理解しやすい。
- 5～50分近く、余暇を過ごすことができる。
- 落ち着いた声、単語であれば理解しやすい

③他の場面から「強み」のリスト追加

- タイマーの理解ができる
- 家では余暇グッズを使って、余暇を過ごしている
⇒ 短いもので5分、長いもので約50分過ごすことができる。
- 落ち着いた声、単語であれば理解しやすい

④「強み」を活かした新たな環境

- 乗車後タイマーをセットし（15分）、押してもらう。
- 車中は、余暇グッズを選んでもらい、待ち時間を過ごす（ミニカー、雑誌、CDプレーヤーを準備）。
- 降りる前にタイマーを確認
- 降車の「ボタンを押します」と声をかける。

演習① | 記入例Ⅱ

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 目的地より手前のバス停で降車ボタンを押し、実際にそのバス停で降りてしまう。
- 小さな子どもが乗ってきたときに、声に反応して押す・声をあげる等の行動が出るおそれがある。

① 背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- 言葉の理解が難しい（降りるバス停とそうでないバス停の区別が視覚的に示されていない、「押してはダメ」等と否定的な指示が言葉で伝えられている）。
- 何もしないで待つことが難しい（車内で待つための方法が用意されていない）。
- 子どもの声が苦手（子どもが乗ってくるのが予期できず、静かにしてもらうこともできない）

② 障害特性を「強み」の表現に変換

- 降りるバス停までの見通しが視覚的に示されていれば理解できる。
- 視覚的に伝えられれば理解しやすい。
- 肯定的で短い言葉（「次ですよ」等）で伝えられれば抵抗なく受け入れられる。
- 好きなことをしていれば30分以上は待てる。

③ 他の場面から「強み」のリスト追加

- 家では、ヘッドフォンを使って音楽を聞いて過ごしており、お気に入りの曲であれば30分程度は聞いていられる。
- スケジュールでの予定の把握が可能
- 落ち着いた声、単語であれば理解しやすい

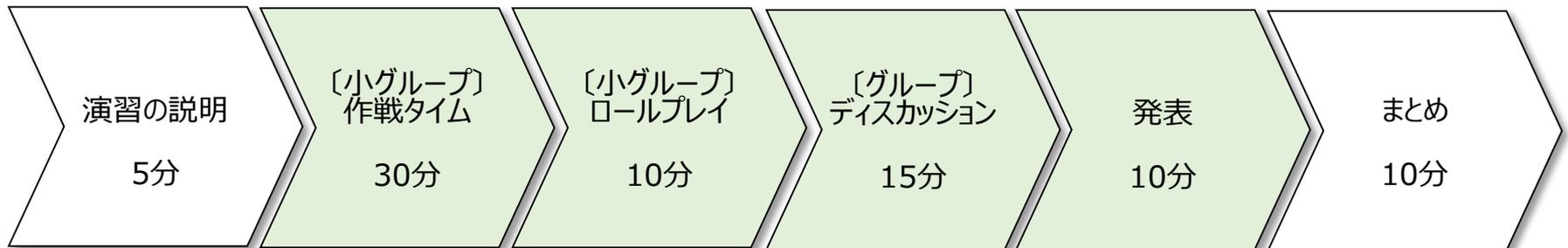
④ 「強み」を活かした新たな環境

- バス停を通過する毎に「バス停の写真」を剥がしていくスケジュールを作り、視覚的に見通しを持たせる。
- 車中は好きな音楽をイヤホンで聞く。
- 降りるときには、スケジュールの降車ボタンカードを示して、「次ですよ」と声をかける。

演習② | 支援の計画を伝える

- 3人の小グループに分かれて、それぞれのグループが4つのプロセスから得られた結果を「支援の手順書」にまとめます。
- 2つの小グループが、「支援の手順書」を互いに伝達し合います。
- 6人グループで、支援手順を伝える際のポイントや、留意点などについてディスカッションします

【演習の流れ】



演習② | 作戦タイム (30分)

小グループと役割の確認

1. 奇数番号の小グループと、偶数番号の小グループを作ります。

小グループには「報告者 (③④)」「ヘルパーA (⑤⑥)」「ヘルパーB (①②)」の3つの役割があります。

支援の手順書を作成し、相手グループへの説明準備

1. 演習①で考えた4つのプロセスをもとに、支援の手順書を作成しましょう。ワークシート (WS-4) を使ってください。

事前準備が大切です・時間に余裕があるグループは、支援で必要と考えられる支援ツールを作成してください。

2. 3分間で相手グループのヘルパーに支援の手順が説明できるよう、ワークシートの括弧内に必要事項を記載してください。

「ヘルパーA」はタイムキープを行ってください。
「報告者」はサービス管理 (提供) 責任者として説明を行います。

WS-4

高時のぞむさんが週末利用している行動援護サービスの支援の手順について説明します。
 説明する内容は（ ）についてです。
 特に、（ ）が課題となっています。

バスに乗車後から降車時までの支援の手順は（ ）に分かれています。
 乗車後から降車時までの支援の手順と、その根拠、理由について簡単に説明します。

支援の手順	根拠・理由
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	
6.	
7.	
8.	
9.	

なお、（ ）といったことが起こる可能性も考えられます。その時は、（ ）のように対応をお願いします。

支援結果の記録は（何に）に、（どのように）記録してください。また緊急時は（ ）まで連絡・報告してください。

引き継ぎは以上になります。よろしくお願いします。

【説明の Point】

- 簡潔に伝える
- ただし、手順書の意味（何故そうになっているのか）は、しっかりと伝える
- 説明時、支援の手順書等を見せながら、支援のイメージを持ちやすい工夫する

① 支援手順書の概要を記載

② 支援手順書の内容を記載

③ その他、想定される場面と対応方法、支援結果の記録方法、緊急時の連絡先を記載

演習② | ロールプレイ (10分)

1. 奇数から偶数グループへ、偶数から奇数グループへ報告します。
2. 報告者は、作戦どおりに相手グループのヘルパーに説明をしましょう。時間は3分間です。(タイムキープは講師が担当)
3. 報告を受けた小グループのヘルパーは、報告者に対して質問や確認をしましょう。報告者は質問に対して簡潔に答えましょう。

ヘルパーA：具体的な状況をあげて、トラブルが起きたときの対応について質問しましょう。

例) 急に腹痛になった時にはどうしたらいいですか？

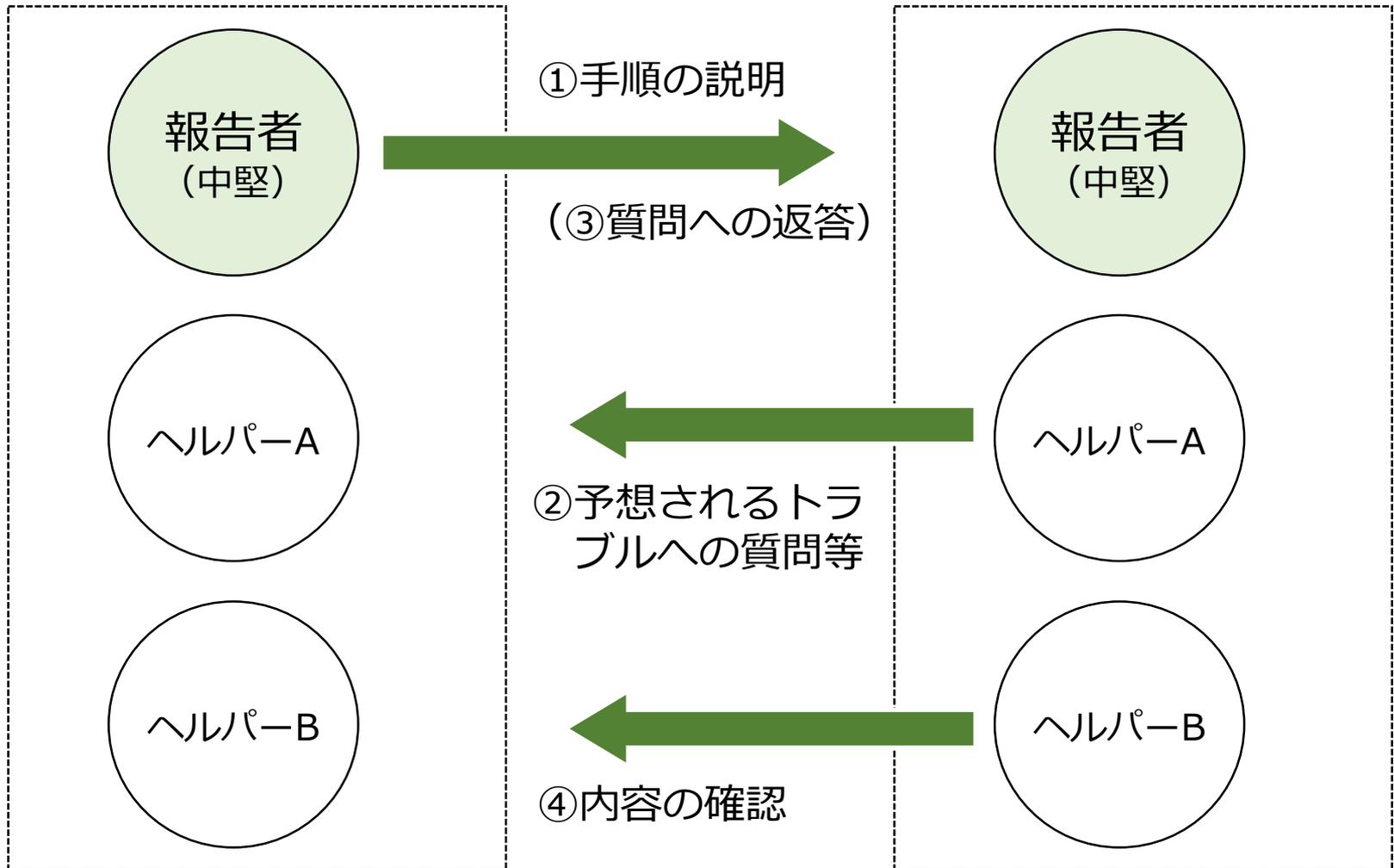
ヘルパーB：支援の手順について整理して、「○○ということですね」と確認をしましょう。

4. 小グループを交代して、同じように2～3を行ってください。

演習② | 支援手順を伝える(3分間)

奇数グループ

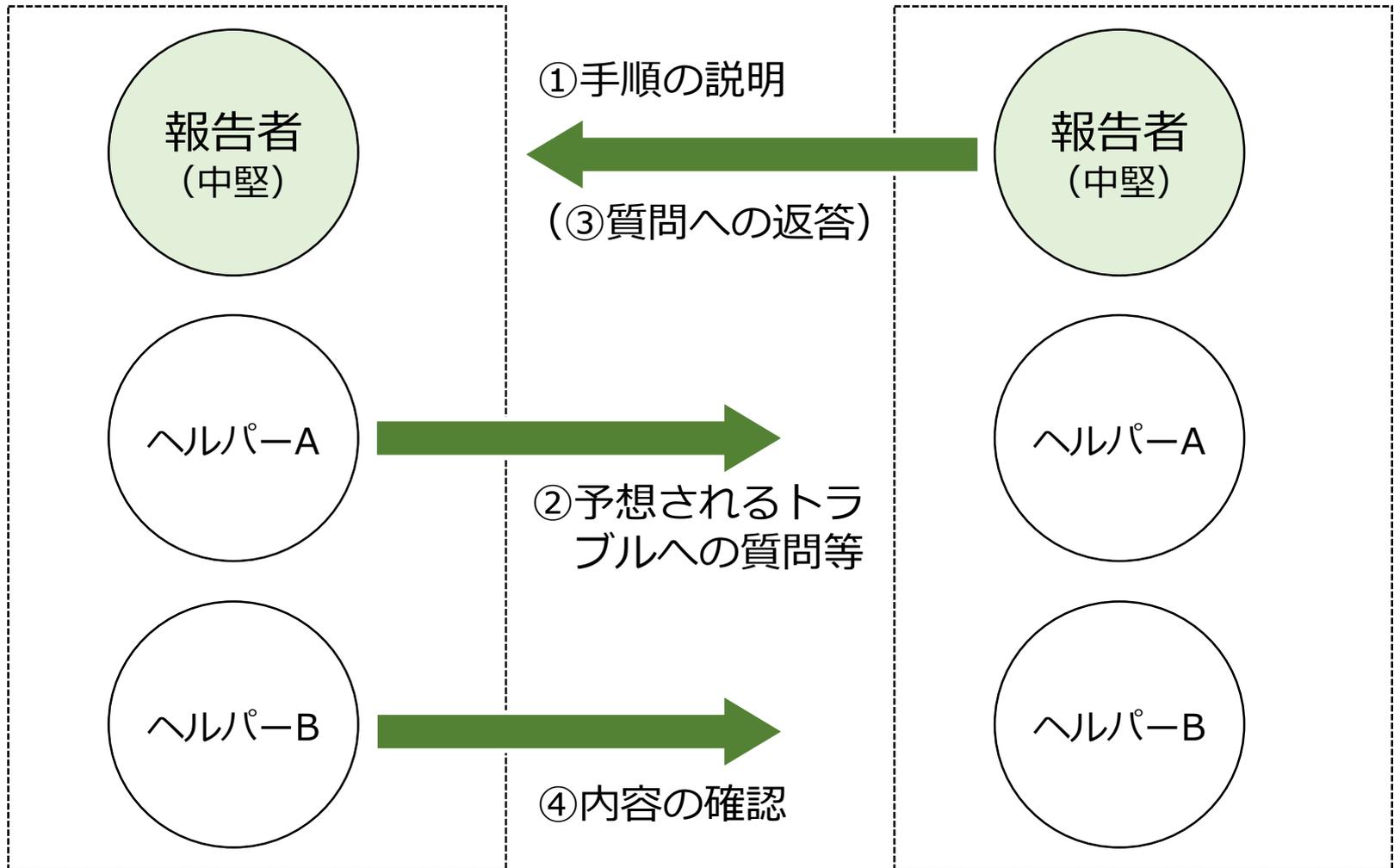
偶数グループ



演習② | 支援手順を伝える(3分間)

奇数グループ

偶数グループ



演習② | ディスカッション (15分)

1. 小グループから6人グループに戻り、ディスカッションを行います。引き続き、「司会」①、「発表者」②、「記録」③の方が担当します。
2. 議論する内容は、次の3点です。記録者は、発表者が発表しやすいように、簡潔にまとめてください。
 - ① ヘルパー役の人は、相手の説明で「分かりやすかった点・良かった点」をあげてください（説明方法）。
 - ② 報告者役の人は、報告するうえで「難しかった点」をあげてください。
 - ③ もう一度報告するとしたら、どの点を改善するかを考えてみましょう。

演習② | 発表 (10分)

1. 2～3グループに発表してもらいます。
2. 発表者は各グループで話し合われた内容を全体に報告してください。
 - ① 相手の説明で「分かりやすかった点・良かった点」
 - ② 報告するうえで「難しかった点」
 - ③ もう一度報告するとしたら、どの点を改善するか

演習② | まとめ

例えば次のような内容、流れが考えられます。

手順書

- 乗車から降車までのステップと、各ステップでの注意点を簡潔に記載する。
- 報告者（サービス提供責任者等）が作成したプランに沿って何回か試し、わかっていること・そうでないことを明確にする。

演習② | 手順書の例 1

高崎のぞむさんが週末利用している行動援護サービスの支援の手順について説明します。

説明する内容は（ **バスの乗車時から降車時までの過ごし方** ）についてです。特に、（ **降車するバス停以外で降車ボタンを押してしまうことと、苦手な子どもの声が聞こえたときに、押す、大きな声を出すなどの行動** ）が課題となっています。

バス乗車後から降車時までの支援手順は（ **6** 個 ）に分かれています。

乗車後から降車時までの支援の手順と、その根拠、理由について簡単に説明します。

演習② | 手順書の例 1

支援の手順	根拠・理由
1. 乗車する	
2. 降車口に一番近い2人掛けの座席に座る	(運転席側) ①必要以上の情報を入れない ②緊急時に、直ぐに降車できる座席位置
3. 座ったら「しゅっぱつ」のカードをはがしてもらい、音楽を聞き始める	スケジュールで予定の把握が可能。ヘッドフォンで音楽を聴いて過ごすことができる。
4. 途中のバス停を通過するごとに、そのバス停のカードをはがしてもらう	①降りるバス停までの見通しが視覚的に示されていれば理解できる。
5. のぞみ大学に到着する手前で、軽く肩を叩いて「だいがく」カードを指差して見せ、はがしてもらう	②自分でスケジュールを操作することで、意識的に「今どこか」「あとどれぐらいか」「次は何をやるか」を理解することに繋がる。
6. 降車する	

演習② | 手順書の例 1

なお、（ **不穏な状態（ウーウー唸り声をあげる、床をドンドンと踏み鳴らす）※体調不良でも不穏になることがあります** ）といったことが起こる可能性も考えられます。

その時は、（ **各ヘルパーの判断で途中下車させてください ※スケジュールは隠して、ヘルパーが降車ボタンを押し下車** ）のように対応をお願いします。

支援結果の記録は（ **支援の手順書** ）に、（ **できた時は○、できなかった時や問題・課題があったとき×、と** ）記録してください。

また緊急時は（ **相談支援専門員 ▲▲▲一▲▲▲▲、または保護者（父）●●●一●●●●** ）まで連絡・報告してください。

引き継ぎは以上になります。よろしくをお願いします。

演習② | 手順書の例 2

支援の手順	根拠・理由
1. 乗車する	
2. 降車口に一番近い2人掛けの座席に座る	(運転席側) ①必要以上の情報を入れない ②緊急時に、直ぐに降車できる座席位置
3. 「バスにのる」カードを裏返し、「音楽をきく」カードを確認	スケジュールで予定の把握が可能。ヘッドフォンで音楽を聴いて過ごすことができる。
4. プレーヤーを使って音楽を聴く	①降りるバス停までの見通しが視覚的に示されていれば理解できる。
5. バス停を通過するごとに、バス停チェック表にチェックを入れる	②自分でスケジュールを操作することで、意識的に「今どこか」「あとどれぐらいか」「次は何をやるか」を理解することに繋がる。
6. 「市民病院前」をチェックしたら「音楽をきく」カードを裏返す	
7. プレーヤーを止めて降車準備	③「音楽」の終わりを促す。
8. 「のぞみ大学前」で降車する	
9. 「バスをおりる」カードを裏返し「さんぽ」カードを確認	次の活動を、一緒に確認する。

演習② | 手順書の例 1、2 のスケジュール

バスで移動

バス停チェック表

  和田橋

  市役所

  市民
病院前

  バスの
ボタン

演習② | まとめ

例えば次のような内容、流れが考えられます。

説明

- 1回目は報告者が引き継ぎのヘルパーと一緒に同行して、支援の手順を実際に示す。
- 可能であれば、実際に使用する支援のツール（ex.スケジュールやタイマー、余暇で過ごす物、等）を使ってモデルを示すことで、よりイメージを持ちやすくなる。
- 支援手順を決めた理由と、その通りにやる重要性、緊急時対応、留意点、記録等について補足の説明をする。

まとめ | (外出時の) 支援のポイント

【外出で失敗しないために】

1. 障害特性や本人の行動特性に配慮した事前準備を念入りに
2. 常に先手の支援で行動障害の予防
3. 本人の疲労度に配慮
 - 疲労に起因する行動障害
4. 次回の外出に対するモチベーションに配慮
5. 日常生活に戻るまで支援は終わらない

etc.

まとめ | 伝えるときのポイント

【手順書と説明のチェックポイント】

1. 手順はシンプルか（細か過ぎる、複雑すぎないか）
2. 課題となる行動への対応方法は具体的に伝えられているか
3. 手順書の意味（なぜ、そうなっているか）が伝わっているか
4. 本人の行動と支援の流れが整理されているか
5. 記録の内容と方法が決められているか
6. 2人で付く場合、役割分担が決められているか

etc.

まとめ | 大切なポイント

- 対象者の障害特性や環境要因を考慮し、支援の手順書を作成する
- 直接支援を行うヘルパーや支援者に、正確に手順書の内容を伝える（相手が理解できるように伝える）

**支援の手順書を作成することがゴールではなく、
直接支援する人たちに分かりやすく伝えること、
それが私たちの仕事（求められていること）です**